

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険法での地域密着型サービスの位置づけを学習し、当ホームの理念を確認している。		
2 ○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	前職員が申し送り時等、確認できるように事務室に掲示、出勤時終業時目に触れるように玄関にもかわいく掲示し、また介護の現場でのケアのあり方の基準としている。		
3 ○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や知人が面会に来られたとき、見ることができるように玄関やホールに掲示している。また、ご家族と直接会話ができる時等、さり気なく会話の中に取り入れている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	見学や認知症に関する相談、実習生の受け入れは積極的に行っている。地元の中学校の生徒の体験学習や年末の大掃除のボランティアを通して地域に貢献する努力をしている。今年度は、芙蓉会病院院長を講師に“認知症について”の講演を行い地域住民の方がたも参加してくれて好評であった。運営推進委員会の場を借りて町会長や民生委員の方に参加できる催し物等の紹介をお願いしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うとき、そのねらいを確認し合い、職員みんなで評価している。また、評価の結果を踏まえて改善点についてはみんなで実行に努め、良いところはケアの励みにしている。	
6	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のホームの活動や自己評価・外部評価等の報告をし、現状の課題等について意見交換をしている。また、当ホームに対しての要望等を遠慮なく出してもらえるように働きかけている。	
7	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営やサービスでの疑問・相談、提出する書類等電話で済ませず、直接市の担当者と会って用事を済ませるようにしている。	
8	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護についての外部研修参加の報告を施設内研修会で確認して理解している。今まで、支援ケースは1例である。	
9	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したスタッフが、施設内研修会で報告をし、理解を深めている。管理者・職員は虐待に結びつくようなことのないように防止にも努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の方に、当ホームでのケアのあり方や方針等を正確に伝わるように反応を確認しながら説明し、会話の中から不安に感じていることを察するように努めて説明・答えるようにしている。また、納得していただけたか確認している。	
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、利用者・家族が意見や苦情・要望を言い出しやすい雰囲気作りや会話に努めている。言葉で表現できない利用者には態度や行動で察するように努めている。	
12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月月末にホームからお手紙(近況、健康状態、受診状況、連絡、写真等)を発送してお知らせしている。お小遣いとして預かっている金銭については、個人のお小遣帳に記入し、毎月領収書とともに報告している。また、緊急のときは、管理者が電話で報告している。	
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が何でも話せるような雰囲気を作るように努めており、こちらからも要望を引き出せるような働きかけを行っている。面会に来られたとき等を利用して管理者が要望等を聞くようにしている。また、運営推進会議に家族も参加されるので、意見や要望も聞いている。	
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、施設内研修会、ミニカンファレンス等の機会を利用して話し合い、実現できるものは取り上げている。	
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間帯、職員が1人になる時間となるべく少なくするため、遅番・早番の時間帯を考慮している。また、柔軟な対応ができるようにその都度申し送り時等で話し合っ て対応のしかたを検討したり、管理者が介護現場に入る体制を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	園長の利用者の混乱を招くことは避けるという方針のもと、法人内での異動はなく、離職や新規採用時は、利用者にわかるように説明し、心理的な動揺を最小限にするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に必要と思われる外部研修は職員が順番に参加できるように配慮している。また、復命書を作成し、施設内研修で報告して全員に伝えている。内部研修も「1年間の大きなテーマを決め、それに沿った内容にしている。集団としての職場研修とともに、来年度からは個人研修計画を作成し、OJT、OFF - JTを推進し、“研修計画策定→研修の実施→研修の評価”と計画的にできるようにしていきたい。		
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回地域包括支援センターが中心となって同地域のG・Hと在宅介護支援センターが合同で開催され、それぞれの現況報告や意見交換して、ネットワークづくりに努めている。これが、もっと身近で気軽にお互い交流できるように発展できるようにしていきたい。		
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事上のストレス・不安は、会議や申し送り時等で取り上げて、全職員の問題として捉えて話合うようにしている。また、職員同士で意見交換して、建設的に解消しているようである。管理者は、一人ひとりの心身に変化があった場合は声がけをし、場合によっては面談する。		
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者自ら、職員の勤務状況や個々の努力等を細かく把握している。一人ひとりに声をかけたり、外部研修への参加を積極的に勧めてくれている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接、本人や家族と面談して、不安や疑問を受け止め、それを職員が共有して、信頼関係を築けるように努めている。	
22	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があったときは、なるべく本人・家族と直接話し合う場を設け、本人等が望んでいる支援にあったサービスの種類や方法を提示し、決定は本人・家族にお任せする。	
23	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、信頼関係を築くことが大切であることは職員は周知しているので、家族等の情報を共有しながら親しみやすい雰囲気を作ったり、本人に合ったコミュニケーションのとり方、気配りをして安心できるように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人と一緒に笑ったり行動したりと、家族と同様に安心できる関係を築くように努力をしている。午前、午後のレクの時間を使って、古くからの知恵や礼儀を教わったりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡、面会時等家族と話ができる機会をできるだけ多く作り、本人の状況を詳しく伝え、また、家族の思いを理解し、良い関係が築けるように努め、申し送り時等でその内容を職員が共有している。また、本人が切に望んだときや必要と思われるときは家族の方に協力してもらえ関係を築いている。		
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員はアセスメントや本人・家族からの情報等を共有して、これまでの双方の関係を理解し、これまでの関係の維持あるいは回復ができるように働きかけをしている。		
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に面会できるように、また、失礼のないように努めている。		
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者同士の相性等その関係を理解・把握し、トラブルにならないように、また、孤立しないように心配りをしている。日中、ホールで安心して楽しく過ごせるように配慮している。		
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了時、これからも相談や支援に応じる姿勢を示している。退所後、病院や他施設に移った方のお見舞いや家族とも機会があれば連絡をとっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話で本人の希望や思いを引き出せるように働きかけ、申し送り時・会議等で把握できるようにしている。困難な場合は、その人になりきって本人の思いを想像してみるようにしている。	
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや家族からの情報を収集し、本人のこれまでの人生を理解するように努め、ケアするときに活用している。	
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人ひとりのその日1日のペース、食事摂取状況、健康状態、排便状況、睡眠状況、精神状態等をそれらの関連性を踏まえた総合的な本人の状況を、申し送り時等で関わる職員全員が把握するようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ミニカンファレンスを利用して職員の意見や家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。	
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね6ヶ月の実施期間として介護計画を作成しているが、状況の変化に応じて見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には健康状態や日々の生活・精神状態を記録し、職員が共有できるようにしている。また、記録とは別に個人についての申し送り事項を別ノートに記載し、始業時に必ず読んで情報を共有し、ケアにあたっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院への受診・定時薬の受け取り、個人的な買い物、役所への諸用事、入退院時の送迎、自宅への送迎等なるべく要望に答えるような支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実習生や中学校の体験学習・ボランティアが来てくれるときに、本人の意向に沿った内容ができるようにしている。		
38	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内のケアマネジャーと話し合うことはあるが、他事業所とはない。	○	他事業所との話し合いについては検討中である。
39	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらって意見交換をしたりしているが、総合的かつ長期的なケアマネジメント等について協働できるようにしていきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を取り入れ、納得が得られたかかりつけ医に受診時必要と思われる資料(バイタルチェック表、食事摂取状況、排泄状況、健康状況等)を通して適切な情報提供したりして、ホームの姿勢を理解してもらえるように努めている。また、定期的な受診をすることにより、より適切な医療を受けられるようにしている。		
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師が「かかりつけ認知症対応力向上研修」を終了しており、いろいろと相談にのってもらいながら必要があれば専門医への紹介をしてもらえるような体制をとっている。		
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤ではあるが利用者を心身ともによく理解している看護職員に日頃の健康状態で心配なことやわからないことは気軽に聞いて、指示を仰いだり相談したり、話し合ったりして健康管理の支援をしている。		
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	頻繁にお見舞いに行き本人の状態を把握し、今後の見通しについての医師からの説明時に家族と同席したりして、病院関係者との情報交換をしている。		
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの看取りの方針を家族やかかりつけ医に説明し、理解してもらっていると思う。職員も内部研修会で確認し共有している。		
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「看取りの指針」・「重度化した場合の対応」について打ち出しているが、細部にわたる検討を考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者間で情報交換を行い、本人が安心できるように働きかけ、ダメージの防止に努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりのプライバシーや誇り・個人情報の保護を大切に守っているつもりであるが、いつも省みる姿勢を持っていたいと思う。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いを引き出せるように、開かれた質問や選択肢から選べる質問、閉じられた質問等いろいろと組み合わせながら働きかけて、自分で決められるように努めている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを守りながら希望に沿った支援ができるように努めているが、職員側本位の支援になっていないか省みることは必要だと思う。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人・家族が納得されて月1回の床屋で好みの髪型にカットしてもらっている。その日着る洋服と一緒に選んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の希望を取り入れて献立を考えたり、誕生日には本人の一番好きなメニューでスペシャルディナーにしている。食事の準備は無理であるが、後片付けや食器拭きを一緒にしている。		
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在飲酒・喫煙をする利用者はいないが、おやつや飲み物はそのときの希望をきいたりして、本人の状況に合わせている。		
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁のある人には排泄状況チェック表を作成し、本人のパターンを見極めて、失敗する前に声がけ・誘導で、なるべくトイレで気持ちよく排泄できるように支援している。		
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から金曜日まで入浴を実施して、1人週3回入浴できるように割り振りしているが、1人ひとりの希望に合わせて入浴をしているかという視点からは支援しているとは言い難いかもしれない。しかし、一人ひとりの好みの入り方に合わせて1対1の会話もゆっくりしながら楽しく入浴はしていると思う。		
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好みの就寝・休息のしかた(時間・居室の明るさ・場所)に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人ができる希望する役割(洗濯物たたみ、モップがけ、食事の後片付け等)をしてもらったり、冬期以外は車で出かけたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人にはそのように支援している。また、買い物に行ったとき等支払いをするとき職員が傍で見守りながら本人が支払いするように支援している。		
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は前庭に出て、日光浴をしながらお茶を飲んだり、車で出かけたりしている。		
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があればなるべく対応している。		
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分でできる人は公衆電話を使用し、できない人はホームの子機を使用して行っている。お手紙は自主的に書ける人にはかいてもらう。暑中見舞いや年賀状は絵手紙や貼り絵にして書くように支援している。		
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来てもらえるように職員は挨拶・言葉掛け・態度に心配りをして安心できる雰囲気を作るように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内研修で勉強しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、常に利用者の所在・安全を確認しながら見守りをしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の状態に合わせて自己管理したり、職員管理にしている。自己管理している人でも危険の可能性はあるのでさりげなく見守りをしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設内研修会でリスクマネジメントの勉強をしており、危険を予想して未然に防ぐ対応を日々申し送り時等で話し合っており、対応策は共有している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員みんなが見やすくわかりやすいマニュアルを作成し、機会があれば訓練している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	運営推進会議で町会長や民生委員に協力を呼びかけ、秋の町会の防災訓練ではG・Hの前庭を場所提供して直接住民の方々に非常ベルがなったときの協力をお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の行動障害のパターンや疾患等により起こり得るリスクについて、管理者と家族でその予防対応策について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの健康上の留意事項を把握し、常に観察し様子の変化を見落とさないようにして申し送り時や個人の連絡ノートを活用して職員が共有している。状況に応じて看護師の指示を仰ぎながら医療機関を受診している。		
71	○服薬支援 - 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、薬の内容を理解し、誤薬防止のため、薬に氏名と服用時間を記載している。薬の内容や副作用、用量は薬品名カードで確認する。薬の変更時や臨時薬が処方されたときは、口頭とともに連絡ノートで全職員が把握できるようにしている。体調等に変化があったときは報告し医療機関に相談・受診する。		
72	○便秘の予防と対応 - 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の及ぼす影響を理解しており、乳酸菌の摂取や薬剤師のアドバイスで1日に1回は献立の中に便秘予防の食品(とろろ、もずく、長いも等)を取り入れたり、運動に気をつけているが、便秘が続く場合はかかりつけ医に相談して下剤を処方してもらっている。		
73	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生について職員は理解し、口腔内の洗浄や義歯の手入れは職員が一緒に行っている。また、歯科医による往診・口腔ケアも必要な利用者に実施している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算下献立を作り、食事の摂取量は記録し、水分摂取量は概ね把握しているが、必要に応じてチェック表をつける。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・早期発見・対応マニュアルを作成し、流行に時期には確認している。とにかく手洗いとうがいは利用者・面会者・職員一同一年を通して徹底して行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんは毎日除菌・消毒し、食材は毎日新鮮なものを買いに行き使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に手作りの表札を掲げたり、植木や芝生、休憩できるベンチを置くなどしている。また、通り道などところには障害物は置かないようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明等、室内の明るさに注意をし調節している。季節を感じる飾り物や設営をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が団欒できるスペースがあり、畳の小上がりでは横になることもできる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、好みの物は居室に入れるものであれば危険でない限りどんどん持ってきてもらえるように働きかけている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールに温・湿度計を設置し、1日4回チェックし、快適に過ごせるように暖房・冷房・加湿・除湿で調節している。各居室にも温度計を置き、温度調節に気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーで手すりを設置している。危険な障害物を置かないようにして転倒防止・車いすや杖歩行が制限されないようにしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の混乱を招くような汚れ・物品等について職員で検討し、改善している。居室の間違いを防ぐため、本人・家族の了解を得て、本人が作った名札をかけている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇の手入れや前庭にベンチ、テーブルを置いて戸外での休憩・日光浴を楽しめるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員が認知症について勉強し、熱心であること。
- ・職員チームワークがよいこと。
- ・健康面、安全面について職員一同連携をとって取り組んでいる。
- ・みんなで昔懐かしの歌を楽しく歌っている。